



2026年3月期 決算報告

株式会社ニコン

2026年5月8日

1. 2026年3月期 決算報告

2. 2027年3月期 通期見通し

2026年3月期 通期：ポイント

	売上収益	営業利益	当期利益*
通期実績	6,771億円	▲1,124億円	▲860億円
前年比	▲381億円	▲1,148億円	▲921億円
前回予想比	+21億円	▲124億円	▲10億円

通期実績 前年比

- 売上収益は、主に精機事業での販売減少により全社で減収
- 営業利益は、デジタルマニュファクチャリング事業での固定資産の減損損失を含む一時費用**の発生、映像事業の製品ミックス変化により大きく減益

前回予想比 (2/5)

- 売上収益は、全社では概ね予想通り
- 営業利益は、映像事業でのMRMC社*** 株式譲渡関連費用や精機事業での固定資産減損損失等、計画外の一時費用の発生により下振れ

株主還元

- 期末配当金15円、年間配当金40円（前年比▲10円）

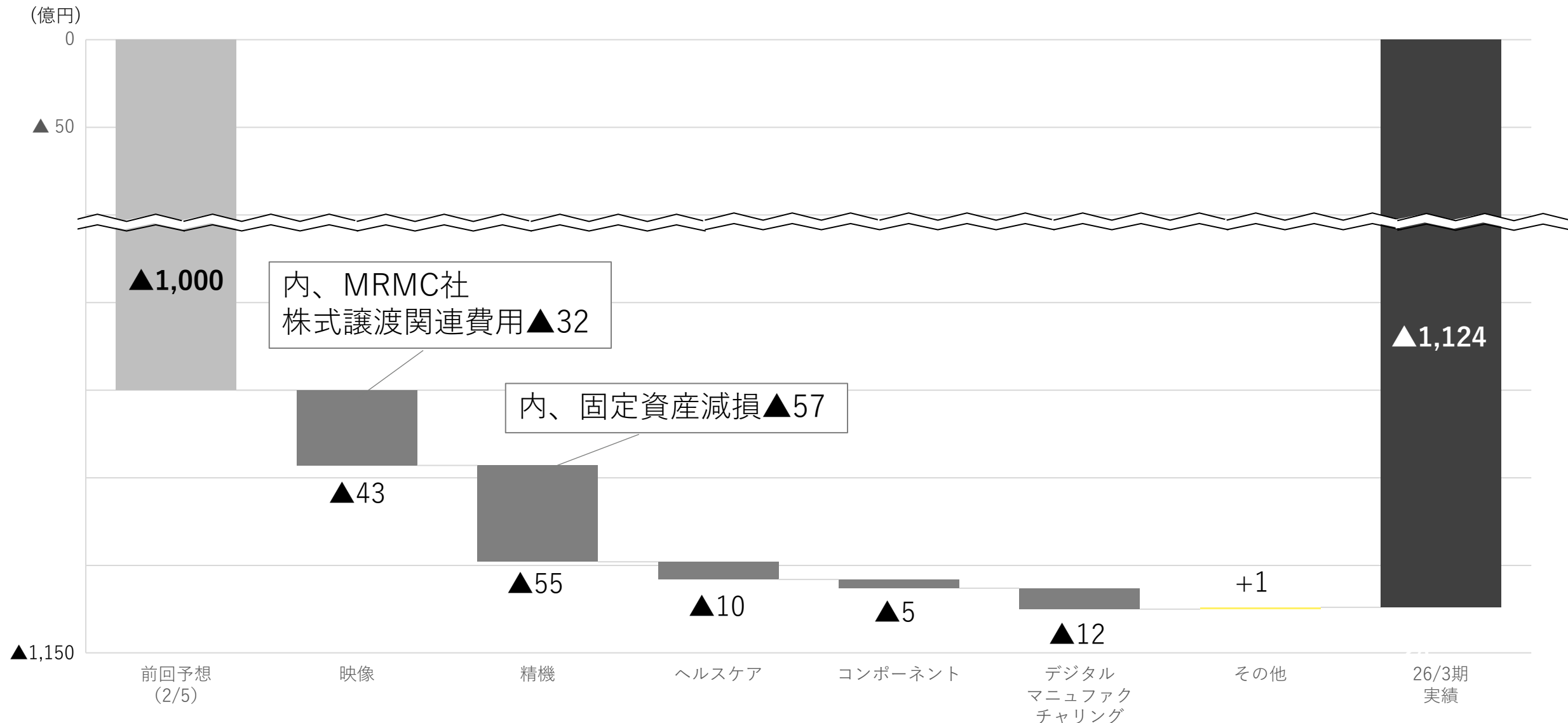
* 親会社の所有者に帰属する当期利益

** 一時費用の詳細金額については29ページ参照

*** Mark Roberts Motion Control社：2016年に買収。主な事業内容は、映像機器のロボット制御ソリューションに関する装置の開発、製造、販売およびレンタル

注：本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨て

前回予想（2/5）からの営業利益変動



下振れの主な要因は計画外の一時的費用の発生

2026年3月期 通期：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期	前回予想	26年3月期	前年比		前回予想比	
	実績	(2/5)	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上収益	7,152	6,750	6,771	▲381	▲5.3%	+21	+0.3%
営業利益	24	▲1,000	▲1,124	▲1,148	-	▲124	-
営業利益率	0.3%	▲14.8%	▲16.6%	▲16.9P	-	▲1.8P	-
税引前利益	45	▲980	▲1,065	▲1,110	-	▲85	-
税引前利益率	0.6%	▲14.5%	▲15.7%	▲16.3P	-	▲1.2P	-
当期利益*	61	▲850	▲860	▲921	-	▲10	-
当期利益率	0.9%	▲12.6%	▲12.7%	▲13.6P	-	▲0.1P	-
FCF	▲217	-	▲170	+47	-	-	-
ROE	0.9%	▲14.1%	▲14.1%	▲15.0P	-	+0.0P	-
EPS	17.86円	▲258.29円	▲261.57円	▲279.43円	-	▲3.28円	-
年間配当	50円	40円	40円	▲10円	-	±0円	-
為替：USドル	153円	149円	151円	売上収益への影響		+63	+73
ユーロ	164円	173円	175円	営業利益への影響		▲112	+17

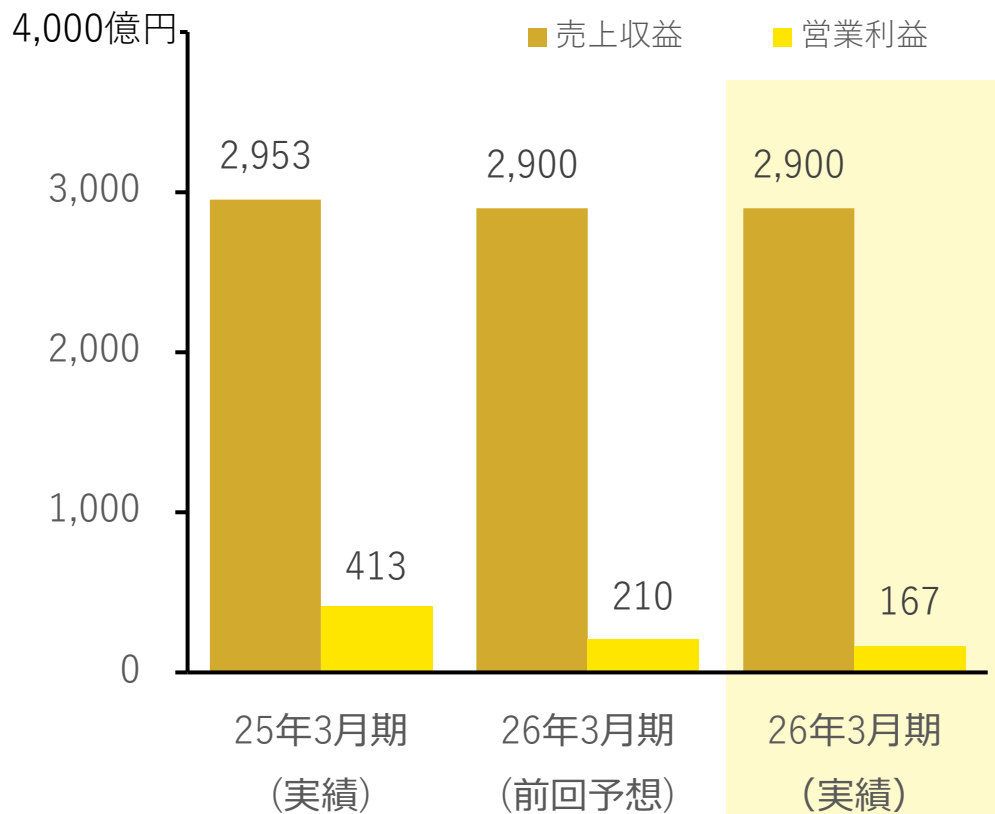
26年3月期における営業利益への関税影響は▲68億円

2026年3月期 通期：セグメント別業績

単位：億円

		25年3月期	前回予想	26年3月期	前年比		前回予想比	
		実績	(2/5)	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
映像事業	売上収益	2,953	2,900	2,900	▲53	▲1.8%	±0	+0.0%
	営業利益	413	210	167	▲246	▲59.5%	▲43	▲20.4%
	営業利益率	14.0%	7.2%	5.8%	▲8.2P		▲1.4P	
精機事業	売上収益	2,019	1,650	1,672	▲347	▲17.2%	+22	+1.4%
	営業利益	15	10	▲45	▲60	-	▲55	-
	営業利益率	0.8%	0.6%	▲2.7%	▲3.5P		▲3.3P	
ヘルスケア事業	売上収益	1,164	1,120	1,119	▲45	▲3.9%	▲1	▲0.1%
	営業利益	67	25	15	▲52	▲76.8%	▲10	▲37.6%
	営業利益率	5.8%	2.2%	1.4%	▲4.4P		▲0.8P	
コンポーネント事業	売上収益	741	790	761	+20	+2.8%	▲29	▲3.6%
	営業利益	71	100	95	+24	+33.0%	▲5	▲4.5%
	営業利益率	9.7%	12.7%	12.5%	+2.8P		▲0.2P	
デジタル マニュファクチャリング 事業	売上収益	233	250	280	+47	+20.3%	+30	+12.4%
	営業利益	▲152	▲1,050	▲1,062	▲910	-	▲12	-
	営業利益率	▲65.2%	▲420.0%	▲378.4%	▲313.2P		+41.6P	
その他 (含、全社費用等)	売上収益	40	40	36	▲4	▲8.7%	▲4	▲8.4%
	営業利益	▲391	▲295	▲294	+97	-	+1	-
連結	売上収益	7,152	6,750	6,771	▲381	▲5.3%	+21	+0.3%
	営業利益	24	▲1,000	▲1,124	▲1,148	-	▲124	-
	営業利益率	0.3%	▲14.8%	▲16.6%	▲16.9P		▲1.8P	

2026年3月期 通期：映像事業



レンズ交換式デジタルカメラ (万台)

市場規模	672	670	704
ニコン	85	90	91

交換レンズ (万本)

市場規模	1,042	1,000	1,067
ニコン	131	130	130

● 前回予想比：売上収益 ± 0 億円、営業利益 ▲43億円

● 前年比：売上収益 ▲53億円、営業利益 ▲246億円

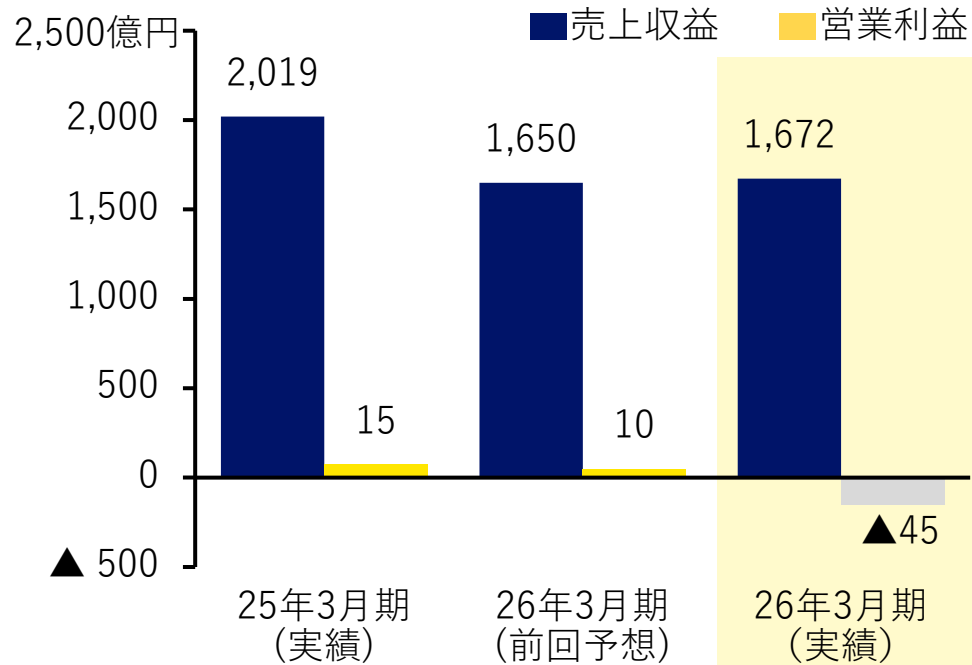
【前回予想比】

- 売上収益は、概ね予想通り
- 営業利益は、MRMC社の株式譲渡契約に関連した一時費用（32億円）に加え、研究開発費の増加等により下振れ

【前年比】

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は堅調に推移してきたが、足元では製品ミックスの下方シフトに加え、関税による値上げの影響や一部成長市場での一服感が見られる
- RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」やボリュームゾーンの「Z5II」「Z50II」などを中心に販売数量は増加したものの、製品ミックスの変化および競争環境の激化に伴うプロモーション費用の増加による平均販売単価の下落に加え、関税影響や上記一時費用の発生等により減収減益

2026年3月期 通期：精機事業



- 前回予想比：売上収益 +22億円、営業利益 ▲55億円
- 前年比：売上収益 ▲347億円、営業利益 ▲60億円

【前回予想比】

- 売上収益は、一部の半導体露光装置の据付が繰延べとなるも、サービス収入の増加等で上振れ
- 営業利益は、主に固定資産の減損損失（57億円）計上等により下振れ

【前年比】

- 売上収益は、FPD露光装置とArFドライおよび液浸露光装置の販売台数減少により減収
- 営業利益は、FPD露光装置が収益改善も、ArFドライおよび液浸露光装置の販売台数減少により減益

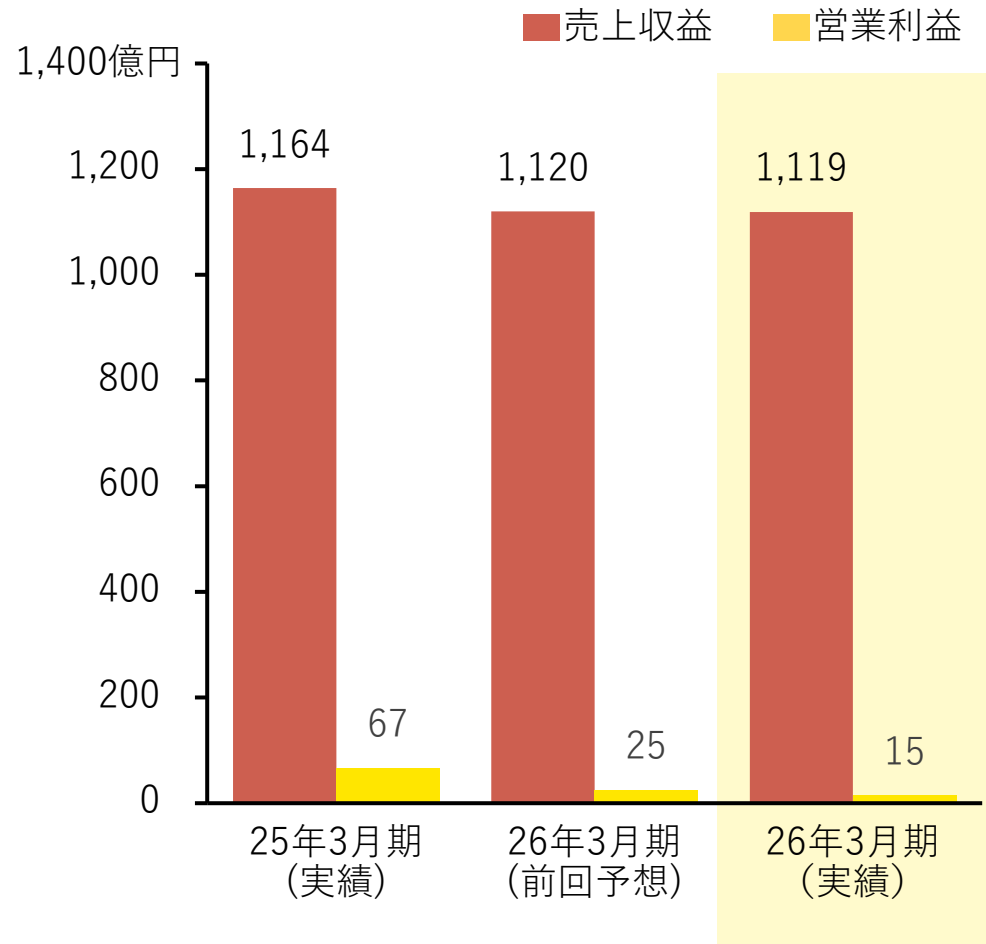
FPD露光装置販売台数 (台)

市場規模 (CY24/25)	58	67	67
ニコン	38	32	32

半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)

市場規模 (CY24/25)	625	570	570
ニコン	18/10	24/5	22/5

2026年3月期 通期：ヘルスケア事業



● 前回予想比：売上収益 ▲1億円、営業利益 ▲10億円

● 前年比：売上収益 ▲45億円、営業利益 ▲52億円

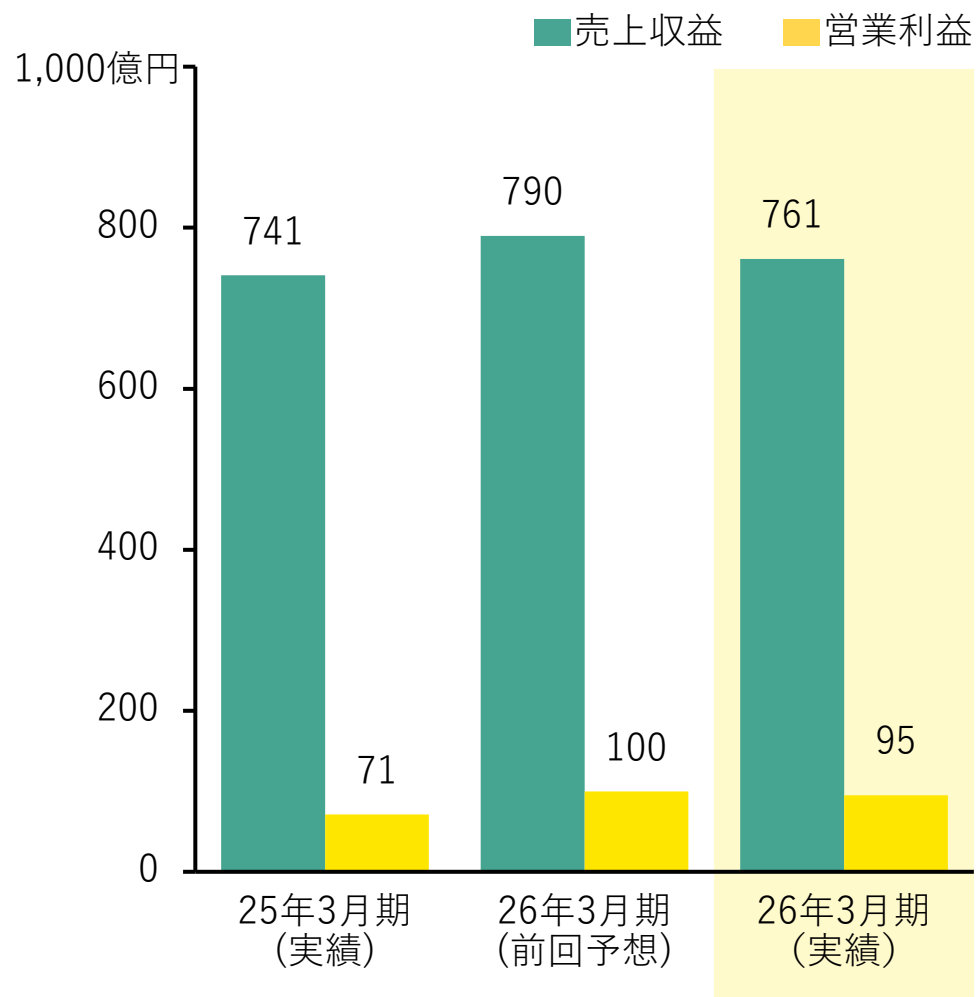
【前回予想比】

- 売上収益は、概ね予想通り
- 営業利益は、棚卸資産廃棄・評価損の計上により下振れ

【前年比】

- ライフサイエンスは、主力の米国市場の停滞により減収。アイケアは、欧米を中心に拡販が進み増収。事業全体としては減収
- 営業利益は、減収に伴う減益に加え、関税影響やアイケア引当金計上により減益

2026年3月期 通期：コンポーネント事業



● 前回予想比：売上収益 ▲29億円、営業利益 ▲5億円

● 前年比：売上収益 +20億円、営業利益 +24億円

【前回予想比】

- 売上収益は、光学コンポーネント等の販売繰延べにより下振れ
- 営業利益は、Avonix社*の固定資産の減損損失（14億円）等の計上があったものの、製品ミックス良化や経費削減により下振れ幅が縮小

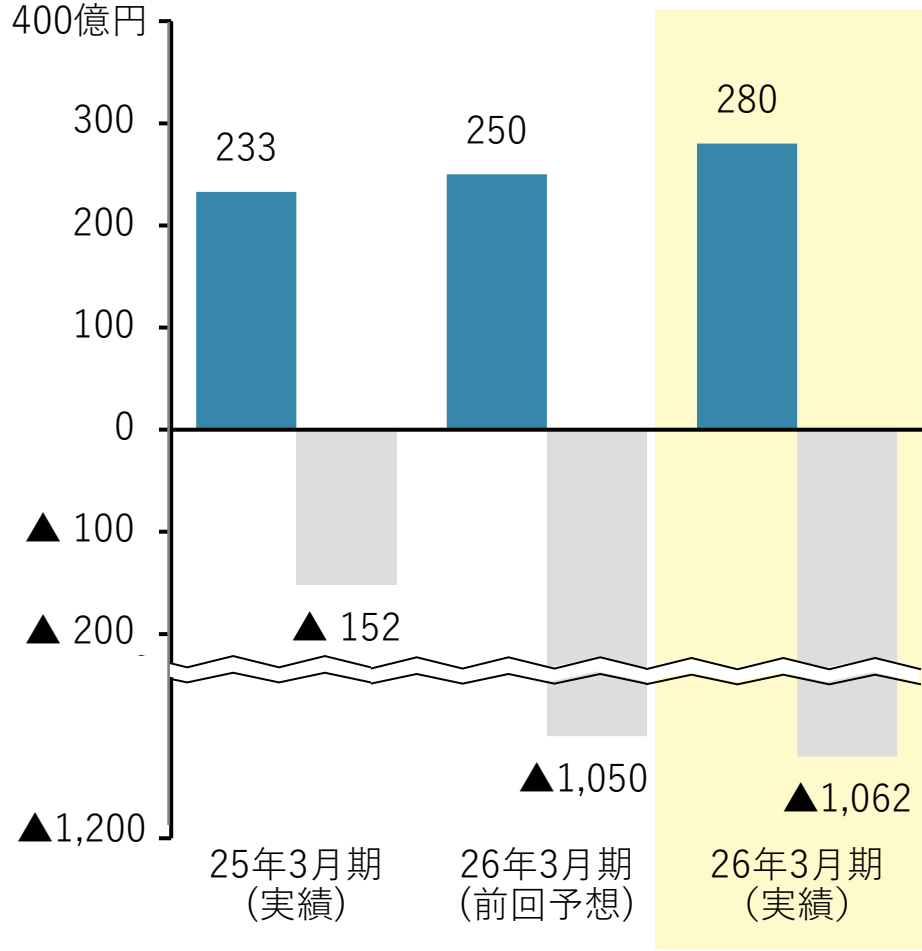
【前年比】

- 電子部品・半導体向け画像測定システムやFPDフォトマスク基板の販売増加により増収増益
- 前年に実施したインダストリアルソリューションズ事業（旧産業機器事業）での構造改革による収益性向上も増益に寄与

* Avonix Imaging, Inc.社：2023年に買収。主な事業内容は、X線/CT検査装置の開発、製造

2026年3月期 通期：デジタルマニュファクチャリング事業

■ 売上収益 ■ 営業利益



- 前回予想比：売上収益 +30億円、営業利益 ▲12億円
- 前年比：売上収益 +47億円、営業利益 ▲910億円

【前回予想比】

- 売上収益は、防衛・宇宙領域での大型金属3Dプリンターの販売前倒しにより上振れ。四半期として過去最高売上を記録
- 営業利益は、増収に伴う増益効果はあるも、固定資産の除却損や棚卸資産廃棄・評価損等を計上したことに加え、為替影響もあり、下振れ

【前年比】

- 競争環境が激化する中、金属3Dプリンター市場全体は横ばいで推移する一方、防衛・宇宙領域を中心に引き続き大型金属3Dプリンター市場の需要が拡大
- SLM社の大型金属3Dプリンターの販売増に加え、為替効果もあり増収
- 固定資産の減損損失（906億円）や構造改革費用（6億円）を計上したことにより大幅減益

注： 26年3月期のSLM社買収に伴う無形資産償却費見込額：前回予想31億円、今回実績31億円

1. 2026年3月期 決算報告

2. 2027年3月期 通期見通し

2027年3月期 通期見通し：ポイント

**売上収益
7,400億円**

- **前年比：+629億円**

- 半導体ArFドライおよび液浸露光装置やEUV関連コンポーネントなどの半導体関連ビジネスの拡大、ヘルスケア事業での米国アカデミア分野を中心とした市況回復、デジタルマニュファクチャリング事業での販売拡大、および為替効果により増収を見込む

**営業利益
100億円**

- **前年比：+1,224億円**

- 前年に発生した一時損益**の剥落に加え、精機事業でのArFドライおよび液浸露光装置販売の増加に伴う増益やデジタルマニュファクチャリング事業の無形資産償却費の減少・構造改革効果により大幅な営業利益の改善を見込む

**当期利益*
100億円**

- **前年比：+960億円**

**1株当たり配当
20円**

- **年間配当予想：20円**（中間配当金10円、期末配当金10円）
- **配当性向予想：65.9%**

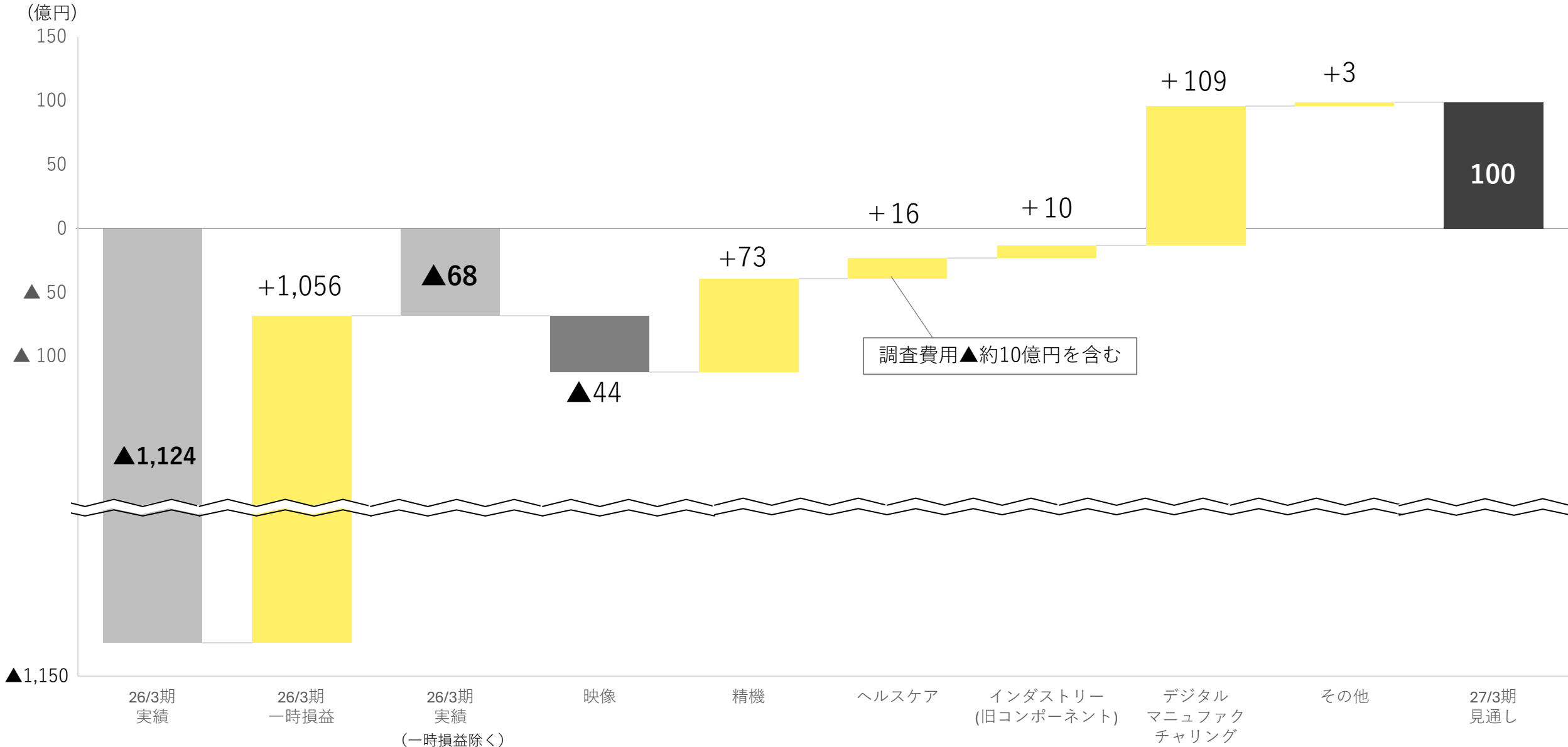
為替前提

- **USドル：155円、ユーロ：180円**

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

** 一時損益の詳細金額については29ページ参照

前期（2026年3月期）からの営業利益変動（一時損益を除く変動イメージ）



注: 27年3月期より「コンポーネント事業」から「インダストリー事業」へセグメント名を変更。
あわせて「株式会社ニコンビジョン」を「インダストリー事業」から「映像事業」へ移管。26年3月期実績はセグメント変更による組み換え後の数値

2027年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	26年3月期 実績	27年3月期 見通し	前年比	
			増減額	増減率
売上収益	6,771	7,400	+629	+9.3%
営業利益	▲1,124	100	+1,224	-
営業利益率	▲16.6%	1.4%	+18.0P	
税引前利益	▲1,065	140	+1,205	-
税引前利益率	▲15.7%	1.9%	+17.6P	
当期利益*	▲860	100	+960	-
当期利益率	▲12.7%	1.4%	+14.1P	
ROE	▲14.1%	1.7%	+15.8P	-
EPS	▲261.57円	30.36円	+291.93円	-
年間配当	40円	20円	▲20円	-
為替：USドル	151円	155円	売上収益への予想影響 +137	
ユーロ	175円	180円	営業利益への予想影響 +33	

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

注： 予想EPSの前提となる発行済株式数：約329.4百万株

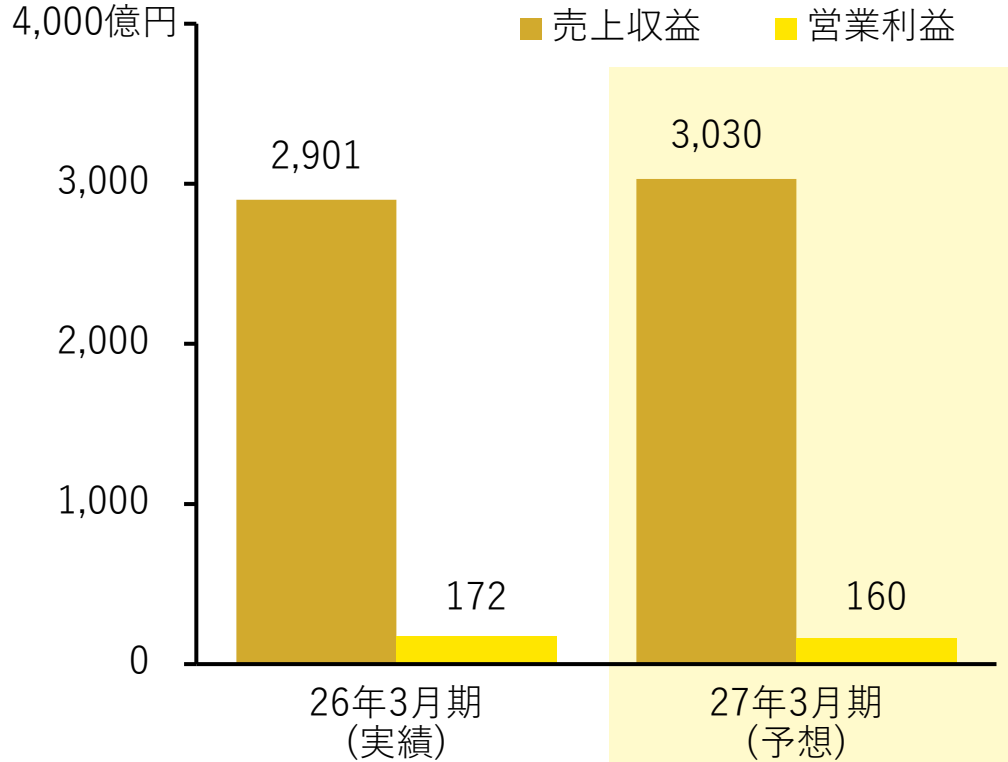
2027年3月期 通期見通し：セグメント別

単位：億円

		26年3月期	27年3月期	前年比	
		実績	見通し	増減額	増減率
映像事業	売上収益	2,901	3,030	+129	+4.4%
	営業利益	172	160	▲12	▲7.1%
	営業利益率	5.9%	5.3%	▲0.6P	
精機事業	売上収益	1,672	1,880	+208	+12.4%
	営業利益	▲45	120	+165	-
	営業利益率	▲2.7%	6.4%	+9.1P	
ヘルスケア事業	売上収益	1,119	1,270	+151	+13.5%
	営業利益	15	60	+45	+284.3%
	営業利益率	1.4%	4.7%	+3.3P	
インダストリー事業 (旧コンポーネント事業)	売上収益	761	840	+79	+10.4%
	営業利益	90	120	+30	+33.3%
	営業利益率	11.8%	14.3%	+2.5P	
デジタル マニファクチャリング 事業	売上収益	280	340	+60	+21.0%
	営業利益	▲1,062	▲40	+1,022	-
	営業利益率	▲378.4%	▲11.8%	+366.6P	
その他 (含、全社費用等)	売上収益	36	40	+4	+9.2%
	営業利益	▲293	▲320	▲27	-
連結	売上収益	6,771	7,400	+629	+9.3%
	営業利益	▲1,124	100	+1,224	-
	営業利益率	▲16.6%	1.4%	+18.0P	

注：26年3月期実績はセグメント変更による組み換え後の数値

2027年3月期 通期見通し：映像事業



● 前年比：売上収益 +129億円、営業利益 ▲12億円

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は中長期的には堅調に推移すると見込むも、消費マインドの変化や物流費・部材コストの変動等により不確実性が高まっている
- 売上収益は、ほぼ前年並みの販売数量を見込むなか、主に為替効果により増収
- 営業利益は、前年に計上した一時費用の剥落や為替効果がある一方、メモリー価格の高騰等もあり、減益を見込む

レンズ交換式デジタルカメラ (万台)

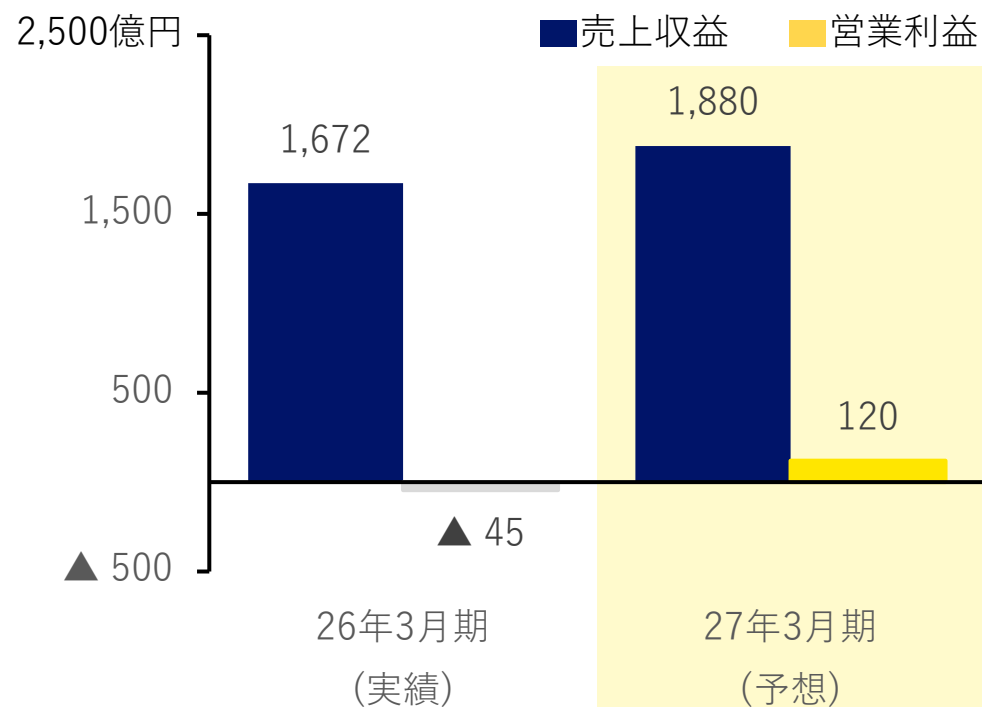
市場規模	704	700
ニコン	91	90

交換レンズ (万本)

市場規模	1,067	1,000
ニコン	130	130

注：26年3月期実績はセグメント変更による組み換え後の数値

2027年3月期 通期見通し：精機事業



● 前年比：売上収益 +208億円、営業利益 +165億円

- 売上収益は、FPD露光装置販売台数減を半導体ArFドライおよび液浸露光装置販売台数増加により打ち返し、増収を見込む
- 営業利益は、前年の一時費用の剥落に加え、ArFドライおよび液浸露光装置の販売増加により、増益を見込む
- 昨年度に受注を開始したデジタル露光装置「DSP-100」は、初受注を獲得。新製品のArFドライ露光装置「NSR-S333F」は、初号機を出荷済み

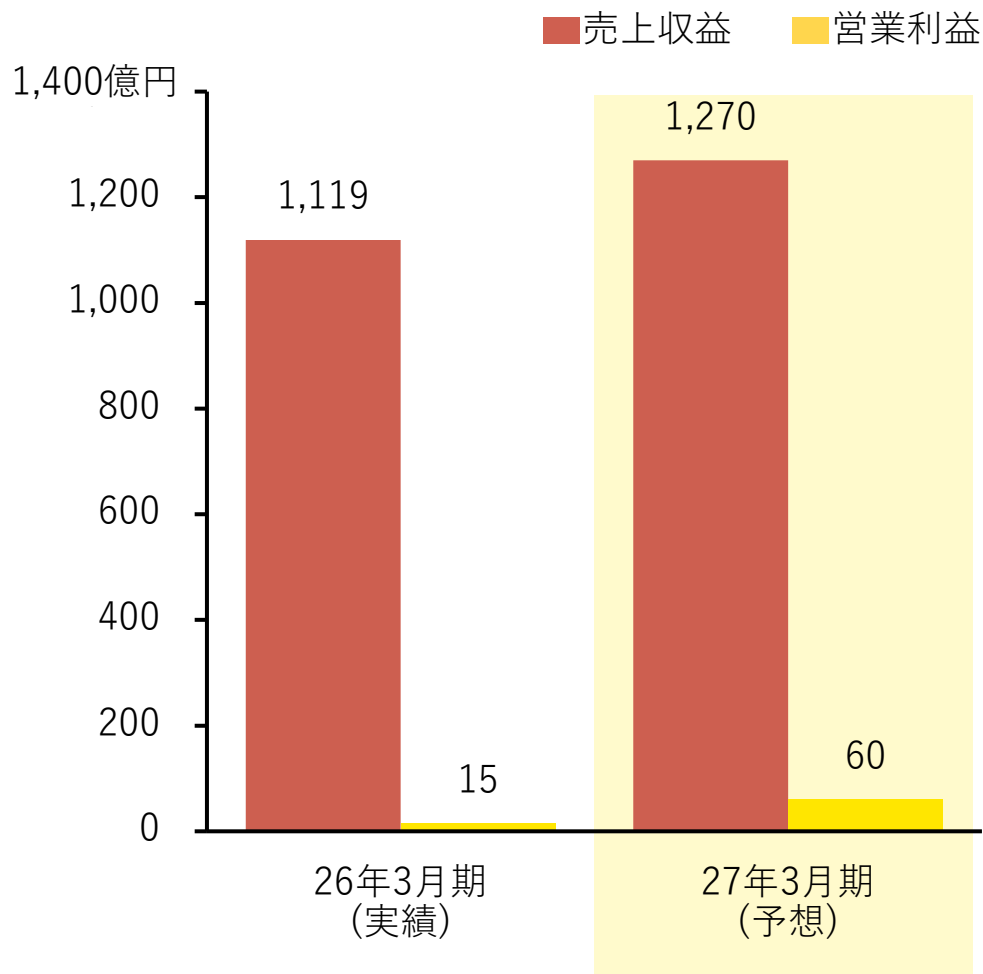
FPD露光装置販売台数 (台)

市場規模 (CY25/26)	67	50
ニコン	32	27

半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)

市場規模 (CY25/26)	570	580
ニコン	22/5	23/6

2027年3月期 通期見通し：ヘルスケア事業

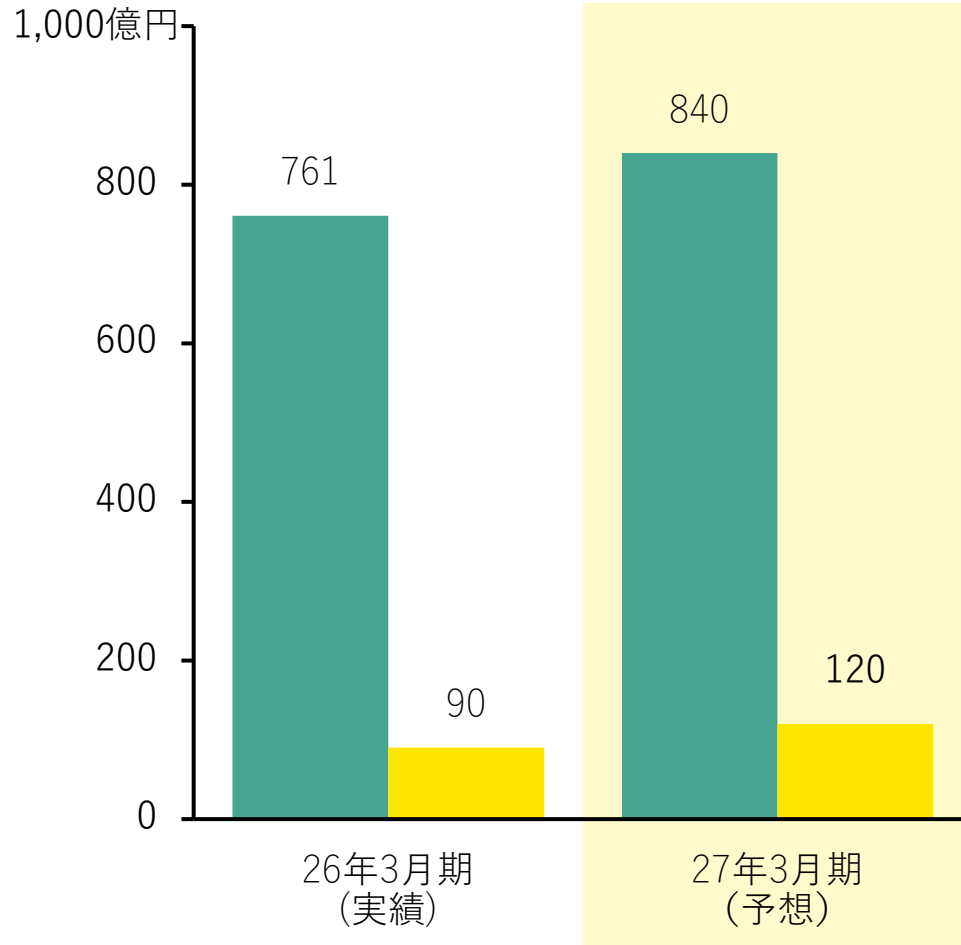


• 前年比：売上収益 +151億円、営業利益 +45億円

- ライフサイエンスは、米国でのアカデミア向け販売の下期回復に加え、アジア・中国での販売増加も見込み、増収
- アイケアは、欧米市場を中心に堅調に推移し、前年並みを見込む
- 細胞受託生産は、既存プロジェクトの拡大を見込み、増収
- 営業利益は、一時費用約10億円を見込むも、主に増収に伴う増益に加え、前年の一時費用の減少により増益を見込む

2027年3月期 通期見通し：インダストリー事業（旧コンポーネント事業）

■ 売上収益 ■ 営業利益

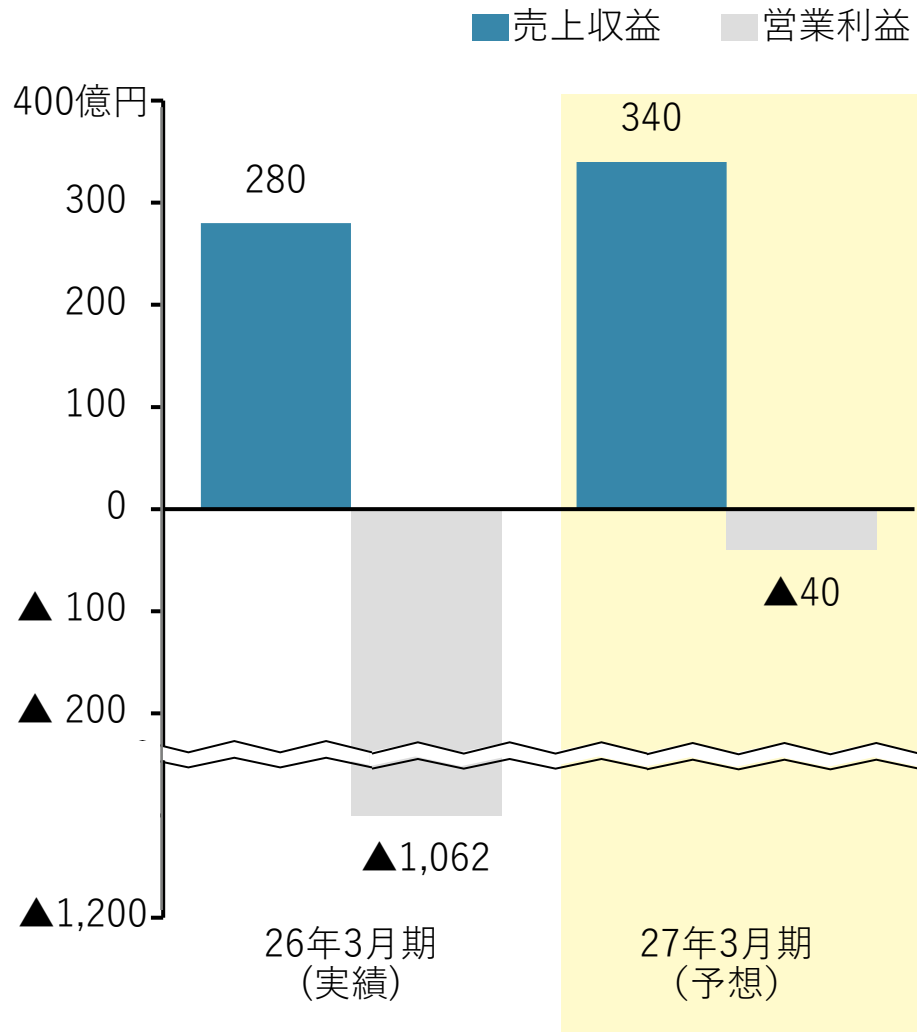


● 前年比：売上収益 +79億円、営業利益 +30億円

- 売上収益は、EUV関連コンポーネントやその他カスタム品の販売増加により増収
- 光学部品・光学コンポーネントやX線CT検査装置等の検査・測定機器分野は販売活動を強化し、堅調な推移を見込む
- FPDフォトマスク基板は前年からの反動減を見込む
- 営業利益は、販売活動強化や新製品発売に伴い費用等が増加するも、増収に伴う増益や前年に発生した一時費用の剥落により、増益を見込む

注： 26年3月期実績はセグメント変更による組み換え後の数値

2027年3月期 通期見通し：デジタルマニュファクチャリング事業



● 前年比：売上収益 +60億円、営業利益 +1,022億円

- 金属3Dプリンター市場は、防衛・宇宙領域を中心に引き続き大型金属3Dプリンターの需要が拡大する見通し
- SLM社の大型金属3Dプリンターの前期受注高は前年比で2割増加、26年1-3月期の受注総額は四半期としては過去最高を記録
- 売上収益は、防衛・宇宙領域を中心にSLM社の大型金属3Dプリンターの更なる販売拡大により増収を見込む
- 営業利益は、増収に伴う増益や前年の一時費用の剥落（913億円）に加え、無形資産の償却費減少（26億円）、構造改革効果の発現により大幅な赤字縮小を見込む
- SLM社は27年3月期の黒字化、事業全体では28年3月期の黒字化を目指す

注： SLM社買収に伴う無形資産償却費：31億円（26年3月期実績）、5億円（27年3月期見込）